

JICA 青年研修「カンボジア地域医療コース」へ参加協力

鹿児島県看護協会は、JAIC 青年研修「カンボジア地域医療コース」に参加協力いたしました。



JICA 青年研修とは、JICA(独立行政法人国際協力機構)が実施している事業で、アジア、アフリカ、中南米、太平洋、中東などの開発途上国の青年層を日本に招き、それぞれの国で必要とされる分野における日本の経験、技術の基盤的理解をするための研修を行い、将来の国づくりを担う人材の育成に協力する事業です。

鹿屋市にあるカピックセンター(鹿児島県アジア・太平洋農村センター)が研修受託機関で、研修先には本会を含む、鹿児島県庁、鹿児島大学、鹿児島中央助産院、鹿屋市の病院施設、鹿屋看護専門学校、肝付町立病院、へき地診療所(錦江町)など医療や行政、学校の16施設にも及ぶ機関や施設が協力されておりました。

研修生はカンボジアの地域医療関係者の13名(保健師、看護師、保健医療関係の行政など)でした。研修期間は平成29年10月20日(金)～11月3日(15日間)、本会での研修は、10月25日の10時～12時(2時間)で、「地域医療を担う人材の能力向上」というテーマで本会の活動や看護職の継続教育等を紹介いたしました。当日は、3階で開催されておりました認定看護管理者研修のファーストの80名の研修生と職員とともに、カンボジア語の“チョムリアップ・スオ(こんにちは)”と練習して、お迎えいたしました。ファースト研修生の皆様には突然のお願いに関わらず、ご協力いただきありがとうございました。

研修後に、カンボジアは国の施策として看護職等は全員が職業団体に入会しているとのことで、日本看護会の設立の経緯や看護協会の入会費や会員のメリットなど熱心な質問もありました。最後に、研修生の代表者として、スヴァイリン州病院手術部で勤務されているUn Rungさんより「鹿児島県看護協会の活動は素晴らしい」とうれいなお礼の言葉をいただきました。

